

学校支援ボランティア通信 No.3

特別講座 『LGBTQ～ひとりひとりの幸せのかたち～』

ウェディングプランナーでメディアでも活躍する
原田大二郎さんをお迎えし、LGBTQ 講座を開催しました。



6月22日、当事者である原田さんをお迎えし、ご自身の体験談や、セクシュアリティに関する詳しい資料も交えてお話しいただきました。ご参加くださった皆さんにとっても、あらためて家族や周りの人達との関わり方について考えさせられたのではないのでしょうか。質疑応答のコーナーでは多数の手が挙がり、セクシュアルマイノリティへの理解をより深めることができました。



参加者の方々のアンケートには、「まずは知る、そして考えることが大事。」
「LGBTQ に関する授業を子どもたちにもぜひしてほしい」などのご意見がありました。
皆がより生きやすい社会を築いていくためにも、大人が知り、考え、子どもたちと話していくことが大切ではないかと思います。



講師を務めて下さった原田さん、企画＆司会進行をして頂いた椎名さん、ありがとうございました。

<質疑応答 ～原田さんにお答えいただきました>

Q.いつ頃、自分が他の人たちと違うのではないかと気付きましたか？

→学生時代に女性と付き合ったこともありましたが、なんとなく違和感を感じていました。そんな中、17歳の頃・高校時代にゲイであることに気付きました。

Q.この人が好きだと思ったとき、どんな感情が起きましたか？

→ときめく、“好きだな”と。皆さんがそう思うときと一緒に、特別なことではないです。

Q.同性愛って病気ですか？

→病気ではありません。かつては病気であるとされたことがありましたが、現在はWHO（世界保健機関）や米国精神医学会、日本精神神経学会なども治療の対象から除外しています。

Q.知らずに傷つけてしまう言葉などがありますか？

→ホモ、オカマ、レズ、オナベ、おとこおんな、おんなおとこ等。

“ノーマルな人”という言葉も差別に捉えられることがあるのでNGワードです。また、本人の了解を得ずに他の人に暴露する“アウティング”もNGです。

Q.親に伝えたときは、どのような反応でしたか？

→実家のある大阪に帰ったときにカミングアウトしました。「それぞれの幸せでいいんじゃない」と、否定も何もされませんでした。

Q.カミングアウトされたとき、どんな言葉をかけたら“受け入れられた”と感ずることが出来ますか？

→「言ってくれてありがとう。」「〇〇さんは〇〇さんだから」と、それまでと変わらずにいてくれたら、そう感ずます。

Q.子どもを教育していく中で、講座のタイトルに関して大切なことは？

→まずは、大人が正しい知識を持ち考えていただけたらと思います。

そして、お子さんとも話してほしいです。

★原田さんオススメの本

・『これからの男の子たちへ』 著・太田啓子

・『元女子高生、パパになる』 著・杉山文野

また、SNSメディア「Pallettalk (パレットーク)」 「LGBTER (エルジービーター)」などもチェックしていただければと思います。

Q. 職場でも LGBTQ への理解を深めるために、見た目で判断しないことや、お客様のお話をしっかり聞く教育がなされています。接客を受ける際に困った経験はありますか？

→今はカミングアウトをして、メディアにも出ているので以前ほどではありませんが、何度も行くお店で会話をするようになってきたときに、「結婚しないの？」と聞かれるか怖かったです。見た目では分からないですから、もしそういう話題になった場合は「“パートナー”はいるんですか？」と聞くのがよいと思います。